

通し番号	5215
------	------

分類番号	R05-99-31-02
------	--------------

黒潮大蛇行と沖ノ山周辺海域における流れの変化	
[要約]「江の島丸」の毎月観測データを解析した結果、黒潮大蛇行が生じた2017年8月以後の期間において、大島西水道、東水道及び東京湾口で速い流れが継続していることが分かった。これは沖ノ山周辺で速い流れを体感している底魚漁業者の声と合致する結果であった。	
神奈川県水産技術センター・企画研究部	連絡先046-882-2312

[背景・ねらい]

神奈川県の漁業者は沖ノ山周辺海域で底魚を漁獲しているが、漁船や釣り糸が流される時に操業が困難となる。この海域における流れの変動を明らかにした場合、漁業の効率化を推進できる。

2017年8月に黒潮が大蛇行流路となり、神奈川県海域に沖合水が流れ込みやすくなっている。県海域内の流れに対する影響を明らかにするため、2013年1月から2024年4月の期間における沖ノ山周辺海域水深50メートルの流速データを解析した。

[成果の内容・特徴]

- 1 大島西水道では、大蛇行期間に速い流れが計測されていた。観測点ロ-I間における流れは、ハ-I間における流れよりも速くなっていた（図1）。
- 2 大島東水道では、大蛇行期間に速い流れが計測されていた。観測点23-24間から25-26間に向かって分布する流れの流向は、東南東から南南東となっていた（図2）。
- 3 東京湾口の観測点15-26間では大蛇行期間に速い流れが計測されていた。14-15間では大蛇行後に流れの大きな変化はなかった（図3）。
- 4 2013年1月から2024年4月までの観測において沖合水が最も強く波及してきた時、大島西水道の流れは2.5から3.4ノットの速さであった（図4）。この時に東水道では1.6から3.0ノット、浦賀水道では1.2から1.6ノットの速さであった（図4）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 黒潮大蛇行の影響により、沖ノ山へ到達する流れが東南東向きに強くなっていると考えられる。関東・東海海況速報などを参考にすることで、本海域の流況を予測できる。
- 2 他の水深におけるデータ解析が行われていないため、表層における船体移動と相対的な水深の流れについて検討が必要である。

[具体的データ]

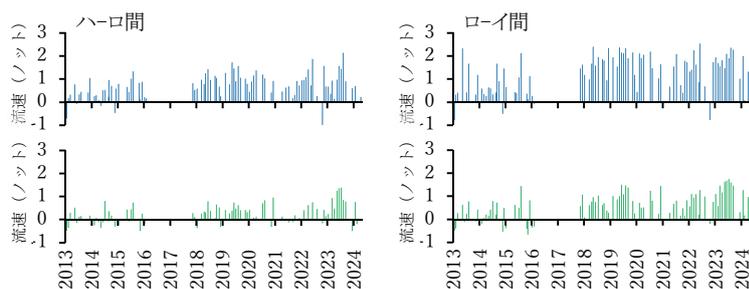


図1：大島西水道における流れの南北成分（青色）と東西成分（緑色）の時系列変化。正の値は、それぞれ北向きと東向きの強さを表す。

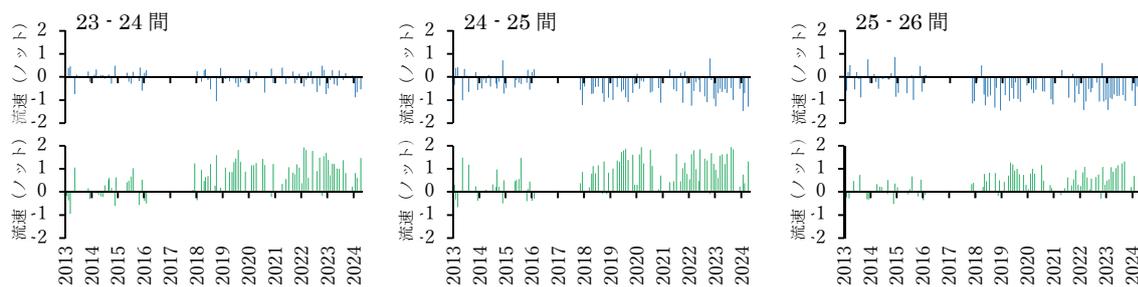


図2：大島東水道における流れの南北成分（青色）と東西成分（緑色）の時系列変化。正の値は、それぞれ北向きと東向きの強さを表す。

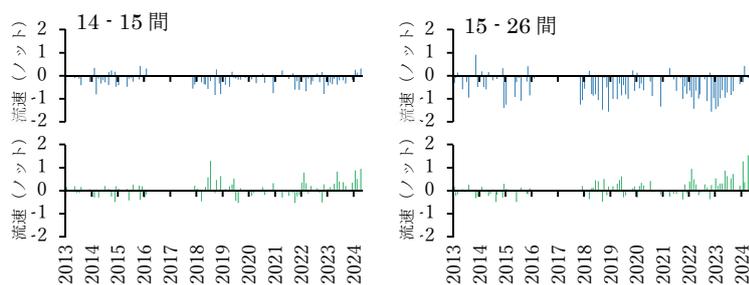


図3：東京湾口における流れの南北成分（青色）と東西成分（緑色）の時系列変化。正の値は、それぞれ北向きと東向きの強さを表す。

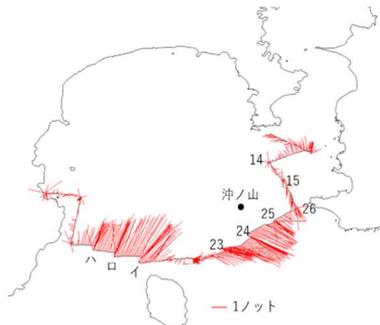


図4：2013年1月から2024年4月の毎月観測において大島西水道の流れが最も速かった事例。

[資料名]

[研究課題名] 急潮情報の精度向上

[研究期間] 令和5年から令和9年

[研究者担当名] 三科智輝

[協力・分担関係]